



Monthly

さいがただより

National Hospital Organization Saigata Medical Center

2023年4月 Vol.39



高田公園の三十櫓とサクラ

発行：独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 院長 佐久間 寛之 <https://saigata.hosp.go.jp/>
〒949-3193 新潟県上越市大潟区犀潟 468-1 TEL:025-534-3131 FAX:025-534-4824

〈基本理念〉「良い医療を安全に、心をこめて」

令和5年度のあいさつ

さいがた医療センター 院長 佐久間 寛之

新年度がはじまりました。新しい年度の初め、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

私は病院長という慣れない仕事をはじめてから、やっと一年が経ちました。病院の代表者という職務は、これまで患者さんの診療をひたむきに続けてきた私にとって、まったく新しい業務でした。責任の重い業務を何とか続けていくことができたのは、ひとえに当院を信じて訪れてくださる患者様、連携を取っていただいている地域の皆様、そして当院を支え続けてくれた職員の皆様のおかげです。あらためて御礼を申し上げます。

さて、この数年間、医療現場にとっての最大の話題はコロナウイルスでした。猫も杓子もコロナ。仕事もプライベートもコロナ。たったひとつの感染症にここまで世の中が、そして個人が振り回されたのははじめてではないでしょうか。

そのコロナウイルス対策も、今年のゴールデンウィーク明けにいよいよ感染症としての位置づけが格下げになります。五類、五類という言葉が近ごろよく聞かれますが、これは感染症法分類上、指定感染症プラス一類～五類、合計6種類の感染症のいちばん下のランク「五類感染症」にコロナウイルスの位置づけが変わると言うことです。位置づけが変われば法制上の措置も変わり、入院勧告や就業制限などの要請がなくなり、一般医療機関の受診や入院も可能となります。

ではコロナウイルスの分類が五類に変わり社会的な制限が緩和されて、感染は広がらないのか？正確に予知することはできません。もちろん病院は患者様や職員の健康を守るべく最大限の努力を続けますが、それでもこれからの社会がどうなるのか、コロナウイルスが広がるのか、未来を知ることはできません。ビジネスでは良く言われることですが、撤退・縮小は成長作戦よりもはるかに難しいのです。コロナウイルス対策も、いままでの厳しい対策を縮小し、その中でダメージを最小限にコントロールすることはとても難しいことです。

ですが、逆に言えばそれは新しい時代の幕開けでもあります。長きにわたるコロナウイルス対策至上主義の時代が終わり、コロナ後の世界で私たちは新しい医療を創らねばなりません。コロナウイルスは世の中にたくさんの変化をもたらしました。私たちはリモート会議やリモート授業の便利さを知ってしまいました。同時に気乗りのしない集まりを欠席する言い訳も失ってしまいました。任意化されたとは言え、マスク着用は当面は社会的なマナーとなるでしょう。パソコンやスマートフォン、ハンディなゲーム機はますます私たちの生活に不可欠なものになるでしょう。リアルな店舗は減少を続け、ショッピングのオンライン化は進むでしょう。経済活動の主戦場がオンラインになればグローバル企業はますます台頭し、小資本のビジネスチャンスは減少するでしょう。そうなれば社会階層の固定化は今以上に進むのかも知れません。コロナウイルスの登場は、私たちが考えている以上に私たちの生活を変えました。そして後にはもう戻りません。

そう言った新しい時代で私たちさいがた医療センターはどんな新しい医療を創るのか。何を変え、何を変えずにいるのか。それがいま問われています。

私は、物事の本質は「変化」だと思っています。変化とはすなわち、新しいことにチャレンジすることです。変化を止めたとき、組織や人が柔軟性を失って硬直化したそのとき、私たちは崩壊していくのだと思います。コロナ後の予測不可能な世界で私たちは時代に合わせて絶えず自分たちを変革し続けなければなりません。変革し続けるためには、団結し、知恵を寄せ集めなければなりません。病院組織、診療領域、県、国、さまざまなしレベルでのコミュニケーションと相互理解をはからなければなりません。

この新しい時代の始まり、これからもどうぞよろしく願いいたします。



医師募集

医師のほか募集中の求人情報はこちら⇒

担当：給与係長 代表：025-534-3131



「独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター」

さいがた医療センターで提供している医療

当センターでは各診療科の専門性を活かしつつ、全人的医療を提供しています。

精神科

- 新潟県依存症専門医療機関・治療拠点機関として、依存症全般(アルコール、薬物、ギャンブル、ゲーム・インターネット等)の診療、および認知行動療法、ヨガ、スポーツ、筋トレ、アロマ、女性プログラムなど様々な治療プログラムを提供しています。
- 精神科急性期医療だけでなく、治療抵抗性統合失調症に対してクロザピンの治療を行っています。上越地域で唯一クロザピンの使用が認められている医療機関です。
- 修正型電気けいれん療法(mECT)を行っています。
- 精神科デイケア・訪問看護ステーションで地域での暮らしを支援しています。
- クロザピンの治療状況…令和4年度新規9例、累計79例

脳神経内科

- 主にパーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症の薬物調整・リハビリテーション目的の入院を受け入れています。
- スピラザ(ヌシネルセン)を用いた脊髄性筋萎縮症治療を行っています。
- 難病デイケアは、身体機能の維持・向上だけではなく、仲間づくりも支援をしています。
- 神経難病病床…令和4年度利用率 82.5%

重症心身障がい児(者)

- 一人ひとりのQOLの向上を考え、より豊かな生活となるよう環境づくりを行っています。
- 在宅の重症心身障がい児(者)のショートステイを受け入れています。
- ショートステイ利用率…令和4年度利用率 46.3% (2床)

特殊外来

- 頭痛、慢性疲労、睡眠時無呼吸、セカンドオピニオン、脳ドック、ボトックス治療があります。

共同利用

- MRI(1.5T)、CT(80列)、RI、脳波・神経伝達装置、超音波検査をご利用いただけます。
令和4年度実績…MRI 30件、CT 16件、RI(SPECT) 3件

第4回 市民公開講座のお知らせ

どなたでも参加できます。どうぞふるってご参加ください。

○日時 令和5年6月3日(土) 14:00~15:30
○会場 上越市市民プラザ 多目的学習室(1階) 上越市土橋 1914-3

講演内容 「へえ~そうなんだ。」を伝えます!

座長 認知症看護認定看護師 保科 三千代

講師/テーマ 感染管理認定看護師 浦沢 昌恵 / 「今やコロナは5類感染症」
日本難病学会認定難病看護師 池田 縁 / 「人生会議について」

参加無料



さいがた医療センター 地域医療連携室からのお知らせ

地域の医療機関や関係機関の皆様との連携を一層深め、受診手続きの簡素化や双方向の診療情報の迅速な提供など、患者様の意向に沿ったより質の高い地域医療の展開を目指していきます。

初診や入院、共同利用についてのご相談は、地域医療連携室にお気軽にお問合せください。

地域医療連携室 連絡先 TEL 025-534-6735 (直通)
FAX 025-534-6851
E-mail 226-saigata.chiiki@mail.hosp.go.jp
9:00 ~ 17:00 (土日・祝日を除く)



地域医療連携室HP



外来担当医表